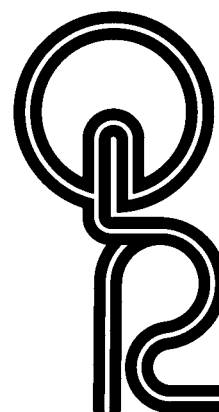


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 18 No.6, 2011



「来て！見て！感激！大化石展」の展示会場。
正面はコウガゾウ（黄河象）、左はヤベオオツノジカ。（撮影 塚腰 実）

Vol. 18 No. 6

December 1, 2011

学術賞講演会・シンポジウム案内・・・2	特別展開催報告・・・・・・・・・・5
学会賞・学術賞候補者推薦募集・・・2	編集書記公募・・・・・・・・・・6
論文賞・奨励賞候補論文推薦募集・・・3	会員消息・・・・・・・・・・7
地質学会共催シンポジウム報告・・・3	幹事会議事録・・・・・・・・・・7
研究委員会募集・・・・・・・・・・4	INQUA 大会幹事会議事録・・・8
国際シンポジウム報告・・・・・・・・4	

2. 推薦書類の提出先

郵送の場合：

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
日本第四紀学会 学会賞受賞者選考委員会 宛

電子メールの場合：daiyonki(at)shunkosha.com

電子メールの件名に「日本第四紀学会 学会賞受賞者選考委員会 宛」と明記の上、推薦文はテキストファイルの添付書類で送付してください。

3. 推薦書類の受理期限 2012年1月31日(火)【必着】

◆「日本第四紀学会論文賞」と「日本第四紀学会奨励賞」候補論文推薦の募集

2012年の「論文賞」と「奨励賞」の推薦を下記のとおり受け付けます。これらの賞は、過去2年間の「第四紀研究」に掲載された論文とその著者が対象になります。会員の皆様から自薦・他薦によって候補論文と候補者をご推薦いただき、論文賞受賞者選考委員会において受賞候補論文・受賞候補者の選考を行います。受賞論文と受賞者は、2012年5月または6月に開催予定の評議員会において決定され、2012年総会で表彰される予定です。

「論文賞」：会員を含む論文著者全員に授与。毎年1～2件程度。対象は掲載された全ての論文（短報を含む）。

「奨励賞」：会員である筆頭著者に授与。年齢は2012年4月1日時点で35歳以下。毎年1～2件程度。受賞者には副賞として5万円の奨学金も授与されます。

つきましては、下記要領ならびに日本第四紀学会ホームページに掲載されている「日本第四紀学会学会賞規定」及び「日本第四紀学会論文賞と奨励賞選考に関する内規」をご参照の上、「論文賞」の候補論文と「奨励賞」の候補者をご推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。これまでの受賞者につきましては、第四紀学会ホームページの以下のサイトをご覧ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/intro/ronbun.html>

1. 選考対象：「第四紀研究」第49巻（2010年）及び第50巻（2011年）に掲載された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文。「論文賞」の場合には、著者に会員が含まれることが必要。「奨励賞」の場合は、筆頭著者が35歳以下の会員であること。

2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、賞の名称、「論文賞」の場合には全著者名と候補論文名（巻号頁を明記）及び推薦理由（500～800字程度）を、「奨励賞」の場合には候補者名と推薦論文名（巻号頁を明記）及び推薦理由（500～800字程度）を記入してください。

3. 推薦書類の提出先

郵送の場合：

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
日本第四紀学会 論文賞受賞者選考委員会 宛

電子メールの場合：daiyonki(at)shunkosha.com

電子メールの件名に「日本第四紀学会 論文賞受賞者選考委員会 宛」と明記の上、推薦文はテキストファイルの添付書類で送付してください。

4. 推薦書類の受理期限 2012年1月31日(火)【必着】

◆日本地質学会共催シンポジウム・セッション報告

日本地質学会大会（2011年9月9日～11日：茨城大学）では、日本第四紀学会との共催として、シンポジウム「関東盆地の地質・地殻構造とその形成史」（9日、世話人：佐藤比呂志・小田原 啓・水野清秀・鈴木毅彦）及びトピックセッション「関東平野の更新統層序とテクトニクス」（11日、世話人：中澤 努・鈴木毅彦・中里裕臣・水野清秀）が開催されました。シンポジウムは、2010年11月20日～21日に日本大学で行われた日本地質学会関東支部－日本第四紀学会ジョイントシンポジウム「関東盆地の地下地質構造と形成史」の第2弾として位置付けられ、反射法探査による関東平野の深部地殻構造を中心に、地震活動、プレート構造とテクトニクス、第四紀堆積物の地質構造と形成史、活断層、巨大地震による津波や地殻変動

などに関する12件の発表がありました。1件あたりの発表時間が15分に制限されていたため、質問や議論の時間があまりとれませんでした。昼休みには、ロビーに貼り出された多くの反射断面の説明が行われ、その場では質問や議論が活発に行われました。参加者は150名ほどでした。トピックセッションでは、12件のオーラル発表と4件のポスター発表がありました。テーマは、鮮新世から後期更新世までのさまざまな年代の地層に対して、層序、地質構造、テフラ、古地磁気、堆積過程、微化石、地下水との関係など多岐にわたっていました。関東平野の地下層序や地層名を整理する必要があることが今後の課題として指摘されました。（水野清秀）

◆ 研究委員会の募集のお知らせ（再掲載）

研究委員会は、会則第 15 条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループです（下記内規参照）。また、国際第四紀学連合（INQUA）の Commission、International Focus Group 及び Project などに対応する国内組織としての役割を果たすことを目的としています。現在、INQUA には下記の 5 つの Commission が設置されています。

Coastal and marine processes (CMP)
 Palaeoclimate (PALCOMM)
 Human and Biosphere (HaB)
 Stratigraphy and Chronology (SACCOM)
 Terrestrial Processes, Deposits and History (TERPRO)

Commission の活動内容の詳細および 2011 年まで活動していた International Focus Group 及び Project については、INQUA のホームページ <http://www.inqua.org/> をご覧下さい。

研究委員会の設置期間は、INQUA 大会終了後の評議員会から次の INQUA 大会終了後の評議員会までの 4 年間です。設置された各委員会は、会合開催など委員会活動を支援するための予算（2011 年度は総額 25 万円）を毎年申請することができます。なお、次期に設置される研究委員会には、2015 年に開催される INQUA 第 19 回名古屋大会において Session や巡検企画などが提案されることが望まれます。

研究委員会の設置を希望される場合は、下記内規を参考に、委員会名、提案者名（5 名以上の正会員）、代表者名、連絡先、活動目的、4 年間の活動計画概要、予想される参加者数、2011 年度計画（予算案含む）などを明記の上、2011 年 12 月 31 日までに電子メールで担当庶務幹事水野(k4-mizuno(at)aist.go.jp)宛にお申し込み下さい。提案頂いた委員会の設置については、次回の評議員会（2012 年 1 月に開催予定）で審議されることとなります。現在の研究委員会の活動は次回評議員会までとなりますので、活動の継続を希望する場合にも新規に申請して下さい。

研究委員会内規

1. 研究委員会は、会則第 18 条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループである。当分の間、国際第四紀学連合（INQUA）の研究委員会（Commission）における諸活動に対応する国内委員会としての役割を果たすほか、IPCC、IGBP などの関連する国際組織への対応を目的に含めることとする。
2. 研究委員会の設置は、少なくとも 5 人以上の正会員からの申し出に基づいて、幹事会から評議員会に提案され、評議員会の承認を得るものとする。
3. 研究委員会の発足を希望する会員は、委員会名、代表者、連絡先、目的、活動予定期間、活動計画、支出計画、予想される参加者数などを文書で幹事会に申し出るものとする。
4. 研究委員会の目的を推進するために、学会は財政的に可能な範囲内で、研究委員会の活動費を 4 年を限度として交付する。
5. 研究委員会の任期は INQUA 後の最初の評議員会から次の INQUA 後の評議員会までの 4 年間とする。
6. 研究委員会は、集会の開催通知や活動記録などを「第四紀通信」に掲載することとし、集会は一般会員にも公開することを原則とする。
7. 研究委員会の代表者は毎年年度末までに活動報告、会計報告および次年度の活動の希望の有無を幹事会を経由して評議員会に文書として提出しなければならない。
8. 研究委員会の代表者は対応する INQUA の Commission 等に活動成果などを報告するとともに、その内容を INQUA 終了後に幹事会を経由して評議員会に文書として提出する。
9. 研究委員会の運営は代表者に一任するが、この内規で処理できない点については、幹事会と協議するものとする。

◆ 第 16 回 SUYANGGAE 国際シンポジウムに参加して

熊井久雄（大阪市立大学）

標記のシンポジウムが 2011 年 8 月 14 日から 21 日まで中国河北省陽原市とその周辺のフィールドで開催されました。シンポジウムの副題は『泥河湾』で、旧石器に関する討論を主目的にしたものでした。報告者は昨年韓国でのシンポジウム

に引き続いて、このシンポジウムの主催者である Professor Yung-jo Lee に招待されて参加しました。Lee さんとはベルリン INQUA 以来の友人で、中国での北京原人に関するシンポジウムや南京郊外での人字洞の調査などで一緒にしています。

このシンポジウムには日本からは東京大学の佐藤宏之さん、京都大学の下岡順直さん、東北大学の鹿又喜隆さん、明治大学の菅 薫さん（現在韓国在住）の5名が参加していました。そのほか、主催国の中国はじめ韓国、ロシア、インド、マレーシア、モンゴル、ハンガリー、ベルギー、イスラエル、アメリカ合衆国などからの38名と、シンポジウムだけに参加した近隣の中国人多数が加わりました。このシンポジウムの特徴は旧石器時代の考古学だけでなく、古環境変化や人類を含む古生物なども討論される点にあります。

15日と16日は陽原賓館で口頭発表がありました。主なテーマは泥河湾盆地とその周辺の旧石器研究、周口店はじめ中国各地の遺跡、アフリカや日本など諸外国の遺跡と古環境、年代や材料など多岐にわたる話題が報告され、一部では激しい議論が交わされました。引き続き、17日から20日までは陽原から毎日日帰りで周辺の遺跡などの見学会が実施されました。初日は今回の副題にまでなっている泥河湾の遺跡で、有名な層序模式地背後の基盤岩との接点近くの遺跡（当時の汀線近くの低地）や新しいほ乳動物化石産地などを訪れ

ました。2日目からは泥河湾盆地の中やその周辺の旧石器遺跡や世界遺産の集落、草原の観光地など多彩な巡検が行われました。私にとっては、以前何回か訪れて長野県の野尻湖湖底遺跡との関連が気になっていた候家窟遺跡（古くは許家窟遺跡と呼ばれていたのですが、最近対岸の集落の名称に変更されています）に行くことを今回のシンポジウムの一つの目的にしていました。この遺跡は、古くは40万年前とも言われていたのですが、その後の調査で約15万年前と新しくなっていましたので、以前中国科学院地質研究所の肖 挙楽教授がレスの層序からステージ6より新しいと言われていたことと合ってきました。

このシンポジウムが終わって北京に戻ってきた時に肖 挙楽教授の研究室にお邪魔しましたが、そこで思わぬ展示に接しました。それは日本でも多くの方が接してこられた故劉 東生教授の記念展示室が中国科学院地質与地球物理研究所に開設されていました。ここでは劉教授の生誕から研究活動の様子など沢山の資料がカラフルに展示されていて、第四紀研究者としては一見の価値があります。



陽原賓館前での参加者記念写真

◆「来て！見て！感激！大化石展」の報告

大阪市立自然史博物館では、日本第四紀学会の後援を受け、7月2日（土）から8月28日（日）までの50日間にわたり、第42回特別展「来て！見て！感激！大化石展」を開催しました。化石の展示は根強い人気があり、入場者は30,159人もありました。中学生・高校生向けのワークシートを作成し、会期が夏休みと重なったこともあり、中学生以下10,625人、高校生・大学生2,279人もの来場がありました。また、大人の割合が多かったのも特徴でした。

今回の特別展では、地球の歴史と関係づけながら生命の歴史を体感できる展示としました。幅広い時代と様々な分類群にわたる917点の標本をもとに、第1部「化石とは何だろう」、第2部「生命と地球の歴史」から構成しました。第1部では、さわれる化石を含めた様々な保存状態の化石を展

塚腰 実（大阪市立自然史博物館）

示し、化石とは何かを理解していただくとともに、化石の美しさも体感できるよう工夫しました。第2部では、先カンブリア時代から第四紀にわたる幅広い時代の様々な分類群（脊椎動物、軟体動物、原生動物、節足動物、植物など）の化石をもとに展開しました。700平方メートルある展示室の3分の1を占める第四紀の展示では、コウガゾウやヤベオオツノジカの全身骨格、古琵琶湖層群産のゾウの足跡化石に人気が集まりました。

標本をじっくり見ていただける展示としたため、子どもはガラスに顔をべったりつけて、大人もガラスに顔を近づけて化石に見入る姿が見られました。来場者に化石そのものが語る生命の歴史の魅力を「来て！見て！感激！」していただけたと思います。

◆「第四紀研究」編集書記の公募について

下記の公募について、周りに適当な候補者がおられましたらご周知くださるようお願いいたします。

「第四紀研究」編集書記の公募

日本第四紀学会では以下の要領で会誌「第四紀研究」の編集書記を募集します。編集書記はフルタイムの職員ではなく、年6冊発行の会誌の編集業務を自宅等ですすめていただける方を希望します。主な仕事内容は、「第四紀研究」の編集割り付け、校正業務、編集委員会事務（詳細下記）です。年6回程程度の編集委員会（東京近郊が多い）にも出席していただきます。

1. 職名および人員：「第四紀研究」編集書記 1名
2. 仕事内容
 - (1) 編集作業：投稿原稿の内容確認・連絡、割り付け・校正作業、著者・編集委員・印刷所とのやり取り、原稿管理、別刷・PDF管理など
 - (2) 編集委員会事務：委員会関係書類（投稿規定、執筆要項、議事録、保証書、同意書、編集状況表など）の管理・記録、原稿受付と受理に関する連絡、投稿原稿リスト作成、編集委員会の開催事務（会議準備・連絡）、編集委員会への出席
 - (3) 編集委員会会計（委員旅費その他支払い、帳簿管理など）
3. 賃金
 - (1) 平成24年7月末まで、8万円/月（現在の編集書記との引き継ぎ期間として、上記業務の現編集書記の補助をおこなう）
 - (2) 平成24年8月からは、10万円/月
4. 採用予定年月日：平成24年4月1日
5. 雇用期間：3年間、その後、2年間毎の再雇用可。
6. 選考方法
 - 1) 書類選考 2) 面接
7. 応募書類
 - 1) 履歴書（写真貼付） 2) 職務経歴書
8. 応募締め切り：平成24年1月16日（月）必着
書類選考後、該当者に面接日時および場所を連絡します。（面接時の交通費は自己負担）
9. 応募書類提出先
〒160-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階
株式会社春恒社 学会事業部内
封筒に「第四紀研究編集書記応募書類在中」と朱書し、郵送してください。
10. 応募資格等
 - ・大卒以上60歳以下
 - ・自宅に電話／ファックス／ネット環境があること
 - ・PCが使用できること（Word、Excel、電子メール、PDFファイル等が使用できること）
 - ・編集経験があるのが望ましい
 - ・長期不在がないこと
11. 備考
退職時には4ヶ月以上前に学会に通知。
逆に学会側からの雇用打ち切りは4ヶ月以上前に通知。

問い合わせ先：daiyonki(at)shunkosha.com

◆ 2011 年度第 1 回幹事会議事録

日時：2011 年 8 月 26 日（金）13:00～14:00

場所：鳴門教育大学講義棟 B104

出席者：遠藤、小野、竹村、池原、植木、須貝、高田、長橋、出穂、兵頭、水野

オブザーバー：百原、三浦、吾妻（以上、前幹事）、奥村（学術会議）

- 1) 2011 年度大会の進行を確認した。
- 2) 2011 年度予算計画について検討した。
- 3) 2011～2012 年度編集委員会のメンバーを確認した。

◆ 2011 年度第 2 回幹事会議事録

日時：2011 年 10 月 23 日（日）10:00～15:00

場所：早稲田大学教育学部 1029 会議室

出席者：遠藤、小野、竹村、久保、北村、池原、岡崎、長橋、出穂、高田、兵頭、水野、奥村（学術会議）、中野（事務局）

（報告事項）

- 1) 庶務関係の報告が行われた。会員名簿出版の進捗状況は、相見積りにより印刷会社を決定し、会員情報の修正を完了した。東日本大震災にかかわる学会の取り組みをまとめて、学術会議事務局に提出した。転載許可 1 件の承認、リポジトリに関する許可申請 1 件の対応を行った。
- 2) 第四紀研究編集状況が報告された。刊行（50 巻 5 号）、編集中（受理済み 3 編、手持ち原稿 12 編）、新編集委員会での確認事項、徳島大会特集号の内容（12 編を予定、編集委員決定）など。
- 3) 2012 年大会（立正大学）の予定について、開催希望日（8 月 20～22 日）、会場の状況、実行委員会メンバー、研究発表会や巡検などの私案が報告された。
- 4) 2012 年 1 月 21 日（土）の評議員会・学術賞受賞者講演会・シンポジウムの予定（会場：奈良女子大学）が報告された。シンポジウムテーマ（案）は「自然史と考古学からみた人と自然の関係性ー日本の古代・先史時代に焦点をあててー」で、学術賞講演 1 名、シンポジウム 3 名は確定。6 月に次の受賞者講演会・シンポジウムを検討中。

5) 徳島大会でのアンケート結果（18 件）が送られてきて、今後その結果をまとめて検討することとした。

6) 2012 年日本地球惑星科学連合大会のセッション提案として、「ヒトー環境系の時系列ダイナミクス」、「平野地質」（以上単独提案）、「活断層と古地震」（主催）のほか 6 件のセッションが共催、連携とすることが報告された。

7) 広報関係の報告が行われた。第四紀通信 vol.18, no.5 を刊行した。現在使用しているホームページ用サーバが 2012 年 3 月末で閉鎖されるため、新しいサーバを検討中である。

8) 第 22 期学術会議会員・連携会員が決まり、その名簿が、学術会議ホームページに掲載されていること、関係者には INQUA 分科会に入ってもらよう調整を行っていることが報告された。

9) 第 19 回 INQUA 大会組織委員会の幹事会（10 月 22 日）の報告が行われた。第四紀学会からの配分予算は、まず旅費分として使用予定。また INQUA 大会参加者数の予想が増え、さらなる助成金・寄付が必要になると思われ、次の評議員会で計画を提案できるように準備する。

（審議事項）

- 1) 幹事会の開催時期、会場、議事録作成担当、メール審議の方法等を確認した。
- 2) 会費減免申請が 1 件あり、2011 年度会費を免除することを評議員会に提案して承認を求めることとした。次年度以降、会費請求時に、減免申請の期限も表示することにした。
- 3) 新編集書記を 2012 年 4 月から雇用することについて、勤務条件、賃金、募集・選考方法などを議論し、承認した。
- 4) 編集委員会会計方法を見直し、学会の会計年度にあわせて年度ごとに精算することとした。
- 5) 2012 年大会の研究発表をセッション制、複数会場とすることに対して議論し、提案されたセッションについては実施する、シンポジウムは行い、その時は 1 会場のみとする、ことなどを続けて検討することとした。
- 6) 大会時以外の評議員会の開催時期について、今後検討することとした。
- 7) 論文賞・学会賞選考委員、法務委員、名誉会員選考委員候補者の選出時期・選出方法などについて確認した。

◆ INQUA 第 19 回大会組織委員会第 1 回幹事会議事録

日時：2011 年 10 月 22 日（土）13:00～16:15
場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス
（秋葉原ダイビル 12 階）

出席：斎藤文紀、遠藤邦彦、奥村晃史、鈴木毅彦、
竹村恵二、中村俊夫、兵頭政幸、松浦秀治、吾
妻 崇

欠席：小野 昭、横山祐典、渡邊眞紀子

議事：

1) 組織委員会の構成委員について確認し、次回
までに就任を依頼する候補者を選出しておく。組
織委員会の体制は 1 月に開催される評議員会に提

案される。

2) 今まで予定していた科学・会場・巡検・広報・
財務・招聘の各委員会に加えて、出版委員会、募
金委員会を追加する。

3) 杉村新名誉会員に名誉委員長をお願いする。

4) 予算案について、予想参加者数増加に伴う全
体予算の変更、必要な助成金額などを検討した。

5) JNTO の寄付金免税制度について、必要な準備
事項を確認し、書類の準備を進めておき、正式な
体制が整った後に速やかに申請する。

6) 次回会合を 12 月後半もしくは 1 月初旬に開催。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸（mhyodo(at)kobe-u.ac.jp）宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性という
ことから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃
にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学 内海域環境教育研究センター 兵頭政幸

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 FAX：078-803-5757

広報委員：糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナン
バーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176